

# ときめき人

Tokimeki bito



## 自然環境の 持続を目指し 里山文化を伝える

南方町・山成

### 佐藤 直也さん

さとう なおや  
1972年生まれ 血液型/A型

#### Profile

佐沼高卒業後、市外造園会社に就職。2000年、一念発起して独立。持続可能な庭造りを実践する傍ら、市環境教育リーダーや県防災指導員として人材育成を行うなど幅広く活躍。



必要なものは手作りで準備。刃物の扱い方も指導します。

「子どもたちの伸び伸びしている様子や生き生きした表情を見られるのがいいですね」とほほ笑むとめ市里山ようちえんの佐藤さん。年間5～6回、20人で生き物観察や野外炊飯などをしながら、親子で自然の中を散策する「お散歩会」を企画している。

活動を始めたきっかけは8年前、市外で催された自然体験に親子で参加し、登米市の自然環境が持つ魅力を再認識したこと。自分も自然や里山文化に触れ、自然と人の共生・共存の方法を親子で一緒に考えられる場を作りたいと、6年前に自身や知人の子どもたちと野外活動を始めた。

「各地で里山が荒廃し、罪のない動物たちが今では害獣と呼ばれています。登米市も例外ではありません」と話す佐藤さんは「庭の仕事も同じ、近年の高齢化や代替わりによって管理が難しくなってきた庭が多いです」と続ける。そういう中で庭師の仕事は、その家の庭を時代の変化に合わせてながら持続していくこと。「環境の分野には、サステナブルという持続可能な自然環境の利用と保全の考え方があります」。イベントでは、子どもたちが五感を刺激するコースで嬉しそうに遊び回る。大人たちも、子どもと一緒に自然と触れ合い楽しそうな良い顔をしている。

佐藤さんは「市民がもっと自然に目を向けるようになるとうれしい。どこまでできるか分かりませんが、地域の自然環境が持続出来るよう、その一翼を担いたい」と里山をまっすぐに見つめる。

## 編集後記

▼2月13日、福島県沖を震源とする大きな地震が発生し、気象庁は「東日本大震災の余震」と発表。東日本大震災から10年経ちましたが、災害はいつでも起こるものとあらためて考える機会になりました。災害時の情報収集は大切です。市メール配信サービスなど、ぜひご利用ください。(小野寺)

▼ときめき人を取材。自分が子どもの頃は、全身泥だらけになって野山を駆け回っていました。しかし、今自分の娘たちにはその楽しさを教えることが出来ていません。口で自然のありがたさを説くよりも、実際に感じることで自らが気付く。大切なことを教えていただきます。(佐々木)

▼「広報とめTOMe」が9年連続で宮城県の代表に選ばれ、全国に推薦されました。広報紙作りで毎回感じるのは、取材に協力してくれる皆さんの温かさ。これからもその優しさに応えられるような広報紙を目指して編集していきたいと思っています。(三浦)



#### 登米市公式ホームページ

(新型コロナウイルス感染症の影響に伴うイベント中止などの情報は市公式ホームページでお知らせしています。) <https://www.city.tomiyagi.jp/>



#### 登米市メール配信サービス

(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。) <https://mail.cous.jp/tomecity/>

